

# 「秋の穂の満つる郷」

## 道の駅



本施設整備に対する考え方 (商号又は名称: 三分一博志建築設計事務所)

山口市の方針である「個性」と「安心」の地域づくりをテーマとし、地域内外のあらゆる世代が安心して気軽に立ち寄れる賑わいあふれる施設をつくります。「あいおの個性」を大切にしながら、防災や休憩、情報発信の機能も満たす『大屋根にぎわい地域拠点』です。

### a. 海洋資源の『にぎわい参道』と水田に浮かぶ『大屋根ひろば』 - あいおのシンボル -

敷地中央に「にぎわい参道」と「大屋根ひろば(多目的広場)」を設け、各室から直接アプローチできる、バリアフリーで全天候型の利用・管理しやすい施設構成です。災害時にも、通常時にも地域内外の人々を迎え入れる、あいおのシンボルとなります。



大屋根ひろば (多目的広場)

#### ● 産業・交流・情報発信機能

「にぎわい参道」と「大屋根ひろば」は、海産物や農産物でにぎわう商店街、町民会館のような多目的スペース情報発信ブースや事務所搬入倉庫等、施設全体と連携することで

産業・交流・情報発信の拠点となり、誰もが快適に利用し買い物等を楽しむことができます。また「水田ひろば」「親水ステージ」とつながり地域住民と一緒に田植えイベントや秋の収穫祭、大漁祭り(漁業体験、魚食体験)、演奏会など、大屋根の下が様々な季節ごとの地域密着型・全天候型のイベントスペースとなります。

#### ● 防災機能

「大屋根ひろば」は多目的スペース(一時避難所等)・備蓄倉庫・シャワー・トイレ・授乳室等と全てバリアフリーでつながり、地域防災拠点の中心として機能します。



多目的スペースと「大屋根ひろば」

#### ● 大屋根デザイン

あいおの海辺の集落には未だ昔ながらの茅葺民家が点在します。水田に浮かぶ、茅葺を模した大屋根です。



#### ● 構造計画

大地震を想定した耐震性を確保します。山口市ゆかりの重源の木造工法なども使い、地域らしい構造デザインも取り入れます。

### b. 人と地球へ未来の『安心』を届ける外構計画

夏場の舗装駐車場の表面は60℃を超え、背の低い子供や車椅子の方には危険なエリアです。一方田んぼの水は20℃台です。南側のエリアは水田の上を流れる涼しい海風が施設を抜け、人にも地球にも優しいエリアとなります。「水田ひろば」やホテルの川井戸端は「大屋根ひろば」と一体に水田ワークショップなどを行い、地域の人々や子供と「共に管理する」学びと遊びの広場となります。敷地の水田を残すことは、同時に造成コストの削減に寄与し、液状化対策、雨水排水対策や耐震対策など災害対策仕様へのコスト分配が可能となります。

敷地全域が、「人と地球へ安心を届ける場」となります。

#### ● 環境デザイン - 水田の気象緩和効果 -

水田の上を流れる海風や既存井戸水を利用して夏場の空調負荷を低減させます。

水田は日中の気温上昇を緩和させる効果があります。また、水田上に形成される低い気温は、風による輸送によって、周辺の土地利用上の空気を冷却します。

夏の風配図 6-8月/9-16時 参考: 北海道大学農研機構HP

### c. 24時間「安心」と「近隣配慮」の休憩機能

24時間清潔感のある、『休憩ラウンジ付きトイレ』を提案します。トイレは24時間使いやすくバリアフリーで明るく安心が求められる一方で、近隣には夜間に光害・騒音をもたらします。そのため配置は、集落から遠く、人目につきやすい交差点に近い、敷地北西とします。



休憩ラウンジ外観

にぎわい参道

つけかえ道路(幅6m)

近隣配慮の計画 (遮音・遮光・風・日照) - 水田を残すことで、現状の日照や視線・風を確保します。敷地北東の境界は、市道中条線へのつけかえ道路(6m)を設けバッファゾーンとし、さらに遮音・遮光フェンスの設置が可能です。

大屋根ひろば

水田ひろば

親水ステージ

高床の「大屋根ひろば」からは水田や集落の屋根越しに瀬戸内の海が望めます

前面道路の渋滞を緩和する滞留アプローチ

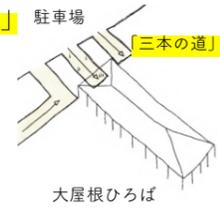
ホテルの川

面積表 (仮)	用途	室内	車庫外	計
多目的スペース(調理実習室含む)		187		187
多目的広場(大屋根ひろば)			151	151
①防災拠点	トイレ・シャワー(4ブース)・授乳室	32		32
	備蓄倉庫	30		30
②地域産業振興	店舗・飲食・加工販売施設	579		579
③情報発信拠点	イベントスペース(大屋根ひろば)		483	483
	情報発信・観光ツアーデスク含む	30		30
④休憩機能	24時間対応 トイレ・授乳室、休憩ラウンジ(観光バス乗務員含む)	201		201
⑤その他	事務室(給湯・トイレ・休憩含む)	60		60
	倉庫(従業員)	45		45
	延床面積(m <sup>2</sup> )	1164	634	1798

駐車台数(仮): 計115台 (管理12台, EV車1台, 身障者4台含む)

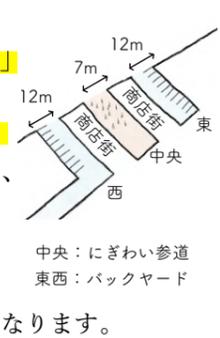
### d. 施設を支える『三本の道』-動線計画-

「毛利三本の矢」に因み造成駐車場エリアと大屋根ひろばの間に『三本の道』を設けます。



#### ● 通常時 円滑で柔軟な運営

商店街の中央が「にぎわい参道」東西の二本が、「バックヤードエリア」として、駐車機能や搬入動線を担い、施設運営全体を「支える」道となります。



#### ● 災害避難時 業務継続も可能

三本の道すべてが東となり災害支援道路となります。中央は配給車や緊急支援車両が「大屋根ひろば」まで直接侵入可能です。東西両道からは、備蓄倉庫、一時避難所(多目的スペース)、シャワー、事務所へアクセスできます。ソーラーパネル、予備電源を備えた本施設は、三本の道をフレキシブルに活用し、一時避難と業務継続が可能になります。

